



昨年11月19日に、日頃からまちの魅力発信に携わっているみなさんと市長対談を開催しました。苦小牧の未来像について、皆さんの意見をきかせていただきましたので紹介します。

テーマ1 X 苦小牧の魅力・足りないと思うもの

市長

本日はお集まりいただきありがとうございます。今回は「まちをデザインする」



をテーマに、日頃から各分野で活躍されている若い世代の皆さんと、今後の苦小牧についてお話をさせていただきます。まず始めに、ご自身の活動と、あなたが考える苦小牧の魅力、あるいは足りないところをお聞かせください。

井元さん

登別でアートディレクターという肩書きで会社をやっています。デザインを通して、何かやりたいことを実現させることが私の仕事だと思っています。苦小牧の魅力については、



空港や港があつて、交通の利便性が良く、人や物が集まりやすい、非常にバランスがよく、恵まれた都市であることだと思います。ただ、足りないと思うのは、苦小牧のカラーですね。これだという特徴が見えにくいと感じています。逆にそれが表に出れば、もっと成長できるまちだと思います。

大宮さん

「誰もやっていないことを新しく始める」をコンセプトに、企画や情報発信をしています。私が思う魅力ですが、苦小牧は海、山、食など、ポテンシャルがあります。ただ、見えにくい部分があるの



で、まち全体で活性化させていけば、道内だけではなく、道外からももっと人が集まると思います。そのためのプロモーション活動が、今は少し弱いと感じています。

永井さん

ノーザンホースパークが空港から近いということもあり、全国から苦小牧に人が集まる楽しいことができればと、マラソン大会など、色々なイベントを企画しています。苦小牧は駒澤高校が甲子園に出場したり、アイスホッケーが盛んだつたりと、スポーツをするための環境がとても良いことが魅力の一つだと思います。あとは空港や港などのハードの部分はすごく良くできていると思うんですけど、それをどう活用するかというソフト部分が足りないイメージがありますね。



八木さん

苦小牧は入社した当初から担当していて、すごく大好きなまちです。魅力を一言でいうと、自然と産業が共存していることです。工場が多くある一方、ウトナイ湖や



樽前山など、PRすることで人を呼ぶことができる自然が多いと思います。もったいないと思うのは、立ち寄る人の数がすごく多いのに、通過型のまちと言われてしまうことなんです。その人たちに、少しでも滞在してもらえようかなという思いがありますね。

吉田

苦小牧に親しみを持ってもらいたいとの思いで、市政の情報発信に携わっています。住む前は、工業都市のイメージでしたが、公園がたくさんあることや、水がとっても美味しいこと、雪が少ないなど、住みやすさの要素が多いまちだと気づきました。ただ、長年住んでいると当たり前になってしまつて、このような身近な魅力に、うまく光が当てられていないのかなと感じます。



市長

苦小牧の魅力をさまざまな立場から出してもらいました。苦小牧は、先輩世代が苦勞して造った港で大きくなった、言わばハード戦略のまちです。しかしこれからのまちづくりを考えたときに、このハードとまちの魅力をどうかけ合わせるかというソフト戦略が重要なポイントだと思います。